

アメリカ研修の機会を頂き、北中部ミネソタ、ウィスコンシン、アイダホと巡りました(8月21-9月5日)。その間蒸し暑い日が続いたようで、その意味では避暑の旅行でもありました。

さて。今回はザッと行程をたどります。



まずは、ミネソタ州ミネアポリスから約1時間のKolonis湖のほとりで行われたジンプロ社主催の牛の蹄病予防に関するコンピュータソフト講習会です。このソフトをトレーニングするために10カ国から約30人が集まり、4日間ロッジに泊まりながら行いました。何人かとは、とても仲良くなり、今後の情報交換を約束しました。



左から Dr.Dorte Dopfa Dr.Arturo Gomez ウィスコンシン大学の蹄病関係の研究者です。私一人のためにスクリーンでスライドを使った講義(DD: 趾皮膚炎について)をしてくださいました。



アイダホの開業獣医師 Dr.RaffaelRichdi 方では内視鏡下で行う第四胃左方変位整復術の研修をしました。3頭やらせてもらい、いずれも経過順調という知らせを受けています。この術式は、追ってご紹介いたします。

動画配信中:へそくりくんのブログ・第四胃変位のコーナー
<http://ameblo.jp/abenorinori>



アイダホは大体が沙漠化した土地と言うことです。ですから、ジャガイモや牧草は、実は灌漑(水撒き)施設がある畑で生育されるのです。仕事の後は、写真のような荒野で、ガンなどぶっ放すわけです...



そんなアイダホで、この農場は、搾乳牛が1万頭います。毎日30-50頭が出産します。ラファエル先生は週に2回訪問し、産後直後のグループと、2週間以内のグループの状態をチェックし(約800頭)、第四胃変位の症例には上記の方法を適用するのです。日本と比べると、桁違いのスケールの仕事量を、我々と同じ時間軸の上で行うわけだから、結果「合理的」になるのだな~ というのが現在の実感です。

皆様のご理解の下、長旅を敢行させて頂きました。有り難うございました。特に第四胃変位手術は収穫でした。近い将来この技術を還元できると思います。